

入賞

国際交流に必要なもの

岩出中学校 三年 東 みつき

国際交流には何が必要なのか。私は、国際交流に必要なものは、「思いやり」だと思う。なぜ思いやりが必要かという、少し前に道徳の授業で、エルトゥール号の話を知ったからだ。

エルトゥール号は、一八九〇年九月十六日に和歌山県串本町沖にある紀伊大島の檜野埼で遭難した。六百名以上が海へ投げ出されたが、生存者のうち約十名が檜野埼灯台下に流れつき、数十メートルの断崖を這い登って灯台にたどりついた。言葉が通じないため、国際信号旗を使用すると、遭難したのがトルコ軍艦であることが分かった。それを聞いた檜野の住民たちは、力を合わせて救助や生存者を助けた。人々は貧しく、食料の蓄えも少しだったにもかかわらず、ありったけの食料や着物、非常用のニワトリまでも生存者に提供した。結果、六十九名が救出された。この出来事を道徳の授業で知り、私は、なぜ見ず知らずの人を助けようと思ったのだろうと感じた。檜野の人々は決して裕福ではないのに、生存者のために、非常用のニワトリを提供したり、ありったけの食料を提供したりした。更に、生存者の手当を行った医師たちは、トルコ側が治療費を請求するように要請してきたことに対して、「お金の請求はしない。痛ましい遭難者を気の毒に思って行ったことだ。」と返したそうだ。私は、この医師たちの言葉と檜野の人々の行動を聞いて、「お金や食料よりも、人を思いやる気持ちが大切なんだ。」と気づいた。檜野の人々と医師は、自分たちの財産は気にせず、思いやる気持ち一つで、救助を行ったり、生存者の手当をしたりした。私も、思いやりが大切だと思う瞬間があった。とあるカフェで、空いている席が無かった時、四人席に一人、女性が座っていた。そこに、外国の方が近づいてきて、女性に「座ってもいいですか。」と聞いていた。すると女性が怒鳴り、外国の方を拒否するようなしぐさをした。座ることを拒否された外国の人は悲しげな表情をして去っていった。この場にいた私は、知ら

ない人だからという理由で拒否したのではないかと感じた。今も、あの時の光景を思い出すと、自分にも何かできたのではないか、あの外国の人は悲しい思いをせず済んだのではないかと考えてしまい、とても心が痛む。

このように、エルトゥール号の話や自分の経験から、私は「思いやり」をもっと多くの人々に持ってほしいと思った。また、人々は「思いやり」でつながっており、思いやりがなければ、見ず知らずの人との関わりがなくなってしまうのだ。私は、誰もが人に対して、思いやりを持って行動していると思う。例えば、近隣の住人に挨拶をしたり、スーパーで食べ物を買う時にレジで店員に「ありがとう。」と一声かけることなどだ。たった一言の挨拶やお礼で相手の印象がとても変わる。だから、少しでも相手を思いやる気持ちを持てば、人との関わりが大きく増えると思う。少しのことでも、毎日少しずつ、思いやりを持って行動すれば、いつか自分に良い事になって返ってくる。挨拶やお礼、ゴミ拾い、掃除、誰がしても、されても嬉しいことだと私は感じる。最後に、私は、悩んでいる人や困っている人を助ける、思いやりを持った人間になりたいと思っている。思いやりについて学んだことを活かし、人を思いやることは素晴らしいと人々に伝えたい。思いやりは、世界中をつないでくれる輪のようなものだからだ。